

裂き織りと北前船

裂き織りは、木綿が普及する以前の食物繊維を素材とするものと、裂き布を使うものがあります。今回の体験プログラムは、後者になります。

裂き布を使う裂き織りは、古木綿の流通にともない、日本海沿岸各地で作られました。北前船で運ばれた古木綿が古手屋（古着屋）や行商人の手で木綿栽培のできない地域に売り広められたからです。近年、佐渡では、こういった伝統技術を生かして裂き織り教室や体験が盛んに行われています。

木綿がとても貴重な地域だった新潟は、佐渡だけでなく、越後側の漁村、さらにその周辺の農村でもみられました。丈夫で暖かく、しかも肌につかず涼しいので、漁の冲着物、山仕事や野良仕事として使われました。その他にも、短着、ヤマオビ、前掛、コタツなどに使われています。

参考文献：『日本民具辞典』日本民具学会編